

和歌山県立伊都高校

## わくわくライブは分野を絞り学校選びを始める第一歩

### 高2の夏休みは将来を考えるタイミングとしてもベスト

和歌山県立伊都高校では、2年次の総合的な学習の時間に課題研究を行っていたが、成果はいまひとつだった。そこで3年前、「進路計画を具体化させる」という目標を掲げ、内容を改編。以前は自主参加だった「わくわくライブ」を学校行事に組み込んだ。「最大の魅力は網羅性」と進路指導部長の松岡重憲先生は語る。例年、大学、専門学校、就職の割合が4:3:2と進路が多様な伊都高校でも、ほとんどの生徒の要望に応えられる。タイミングとしてもいい。「分野は決めていても、学校まで考えていない生徒が多い時期。具体的に絞り、夏休みに見学に行くきっかけになります（松岡先生）」

### じっくり話せた生徒ほど得るものが多い

わくわくライブでは、キャリアガイダンス.netからダウンロードできる「仕事研究ワークシート」を使用している。「実際に即して使いやすい。活動の履歴となり、各自の得た成果も一目瞭

「わくわくライブ」  
仕事や学問をリアルに体験できる一大イベント

毎年夏に東京、大阪、名古屋、静岡などで開催。昨年は約4万6000人の高校生が参加。プロから仕事の話を聞く、模擬授業を受けるなど目的別に体験可能



然」といふ松岡先生。「生徒を最も刺激するのは仕事発見コーナーでの職業人との話らい。美容師志望の生徒が仕事の大変さを聞き、『でも好きだから頑張る』と決意を新たにするなど意欲が高まる様子が見られます（松岡先生）。一方で大学志望者が学校相談ブースで相談しても、概要を聞くのみで、学問への興味が深まらないことは気がかり。「必ずオープンキャンパスなどの説明があり、見学への導線になっている点は評価できる」と松岡先生。いずれにせよ誰かとじっくり話せると、進路への意欲が高まるのが全体的な傾向。「マンツーマンで相談できるのはとても貴重」と松岡先生も効果を感じている。

わくわくライブに参加した生徒の感想

志望分野の農学部や興味のある大学のブースで話を聞いた。複数の大学を比較し、受験校を絞り込むことができた。

保育科に関わるブースでいくつか話を聞いた。実技でピアノが必要だと聞き、練習しようと思った。また保育園と幼稚園の違いがよくわかった。

自分自身や将来に関して、あまり考えていなかったことがよくわかった。それは今も変わっていないが、いい加減自覚しないと、と考えさせられた。

伊都高校の各コーナーの活用法

仕事発見コーナー	仕事から探すのは馴染みやすいせいか、よく活用している。憧れの職業について働く社会人から仕事内容ややりがいなどを聞いて、魅力を再認識し、進路の意欲が高まる生徒も多い。
学問発見コーナー	学校名を手がかりに立ち寄る生徒が多い。学問自体に興味を持つ生徒が少ないのが現状。
模擬授業コーナー	毎年参加者は2～3人。限られた滞在時間中に興味のある授業をやっていない可能性も高い。活用したいがしきれない、もどかしいコーナー。
学校相談コーナー	毎年3年生になって自主参加している生徒50人前後は、たいいてこを利用。志望校の最終的な比較の際に活用されている。



進路指導部  
松岡重憲先生

生徒の引率でわくわくライブに数回参加。移動時間があるので、滞在は11時～14時までだが「好奇心旺盛な生徒は、ギリギリまで色々なブースを見えています」

>> School Data

生徒数 / 512人 6学級普通科単単位制

進路状況(2005年度) / 大短進学40.4%、専各進学28.9%、就職16.1%、その他14.6%

和歌山県伊都郡高野口町名古曾558

TEL 0736-42-2056(代表) 0736-43-0396(進路指導部直通)

URL <http://www.ito-h.wakayama-c.ed.jp/>

わくわくライブ用のワークシートは「キャリアガイダンス.net」(<http://www.career-g.net/>)でダウンロード可能です

群馬県立富岡高校

# R-CAPは自己理解をもとに 進路を考える基礎材料

「R-CAP」

106職種・94学問  
から適性を診断

約2万8000人の分析データをもとに科学的な手法で「職業適性」「学問適性」を提示。知らなかった自分を知り、得意不得意にとらわれず進路を考える手がかりに



1年次の「総合」で診断。

冬休みに「一年生!」で仕事調べを課す

毎年、地元の国立大学を中心にほぼ全員が4年制大学進学を希望する群馬県立富岡高校。学ぶ意欲を内面から高めようと、4年前から1年次の総合的な学習の時間にR-CAPを取り入れている(下図参照)。「今以上の進路実績をめざす上で、補習や補講など、外からの刺激には限界を感じていた」と進路指導主事の高橋康先生は語る。「大事なのは将来の夢を膨らませること。しかし幅広い分野から自分に向く仕事や学問を選びとるのは至難の技です。R-CAPは効果的に志望分野を絞るための、一つの物差しになる。また結果をもとに、段階的に文理選択まで考えさせる4種類のワークシートも、我が校の授業計画にぴったりでした(高橋先生)」「工学系を希望しながら、親のすすめる公務員になるために文系に進むべきか悩んでいる生徒がいました。しかしR-CAPで出た適性は機械工学。夏休み以降は公務員の話はしなくなりました」と、清水義博先生も効果を実感している。

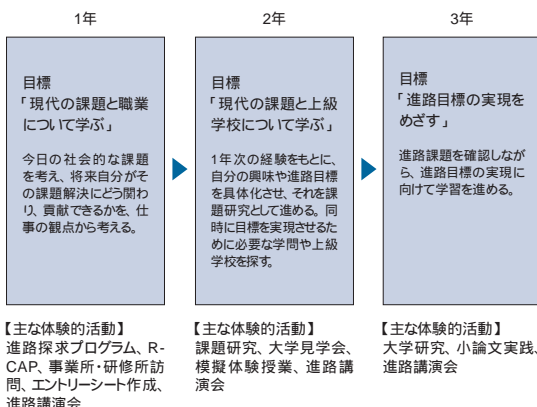
冬休みにはR-CAPの結果も踏まえて「一年生!」の中から、興味のある一人を選び、仕事内容をまとめる宿題を出す。「高校生が職業人に取材する『一年生!』の構成は、親しみやすく感情移入しやすい(清水先生)。このほか事業所・研究所訪問など、様々な体験を通して進路意識を高め、目標に近づくための学習習慣が浸透するよう努めている。

R-CAPワークシート記入例



この生徒は最も合う職業がアントレプレナー(起業家)であることが意外で、将来の夢である弁護士が上位20位になかったことが不満としているが、これを機に自分に合う職業を考えたいと感じている

「総合的な学習の時間」の全体構想図



進路指導主事  
高橋 康先生(左)  
進路係  
清水義博先生

R-CAPの診断結果が配られると生徒は互いに見せあい、大いに盛り上がるそう。「自分を見つめ、社会に目を向けるきっかけになっています」

>> School Data

生徒数 / 606人 各学年5学級 普通科

進路状況 2005年度 / 大短進学84.1%、専各進学6.2%、就職1.0%

群馬県富岡市七日市1425-1

TEL 0274-63-0053

URL <http://www.center.gsn.ed.jp/gakko/kou/tomioka/>

R-CAP用のワークシートは、「キャリアガイダンス.net」(<http://www.career-g.net/>)でダウンロード可能です